

論壇

コロナ禍、苦しくも
我々歯科の台頭という
場面が訪れたと実感し
ている。ところが、日本
人は体を守る器官とし
て、口腔が消化器であ
るという認識を持つて
いない。しかし口腔は
外臓である。唾液など
は消化器として、初期
の武器としての防御を行つてゐる。

特にコロナ禍において、自己免疫獲得の手段として歯科の影響は見えてくるが、食物を介する事でかなり貢献度が上がる。消化器はどうかが消化の良し悪しである。病気の発端は、慢性の消化不良と、食物を中性にして胃に送

る。これが本来の生理機能の目的である。口腔内常在菌と腸内細菌は単に好気性か嫌気性かで同定が類似してお

り、免疫に深く関与している。

機能の目的である。口腔内常在菌と腸内細菌は単に好気性か嫌気性かで同定が類似してお

り、免疫に深く関与してお

る。これが本来の生理機能の目的である。口腔内常在菌と腸内細菌は単に好気性か嫌気性かで同定が類似してお

り、免疫に深く関与してお

る。これが本来の生理機能の目的である。口腔内常在菌と腸内細菌は単に好気性か嫌気性かで同定が類似してお

り、免疫に深く関与してお

る。これが本来の生理機能の目的である。口腔内常在菌と腸内細菌は単に好気性か嫌気性かで同定が類似してお

り、免疫に深く関与してお

食養で免疫獲得

鳥山 栄

ここでの問題は、口腔機能が正常に働くかどうかが消化の良し悪しである。そこで歯科医は食養という専門的知識を踏まえたうえで食品を捉え、考察、実践して予防に繋げる

作用するはずである。機能として備えている。ので、子供たちの消化不良は日々体験している。

成長は、乳児期から幼児期で第1段階が完成、第2段階は乳歯の脱落か

ら永久歯までのほぼ18歳位で終了する。この大

切な期間、食物に対する免疫獲得に貢献したいと考えている。良く噛んで、発酵食品を食べる

事で身体が守られるといふ事実が現に日本人のコロナ感染率の低さで欲しくない。口腔は病

気にならない一手段を

がる。私は小児歯科医

に現れていると思う。

現状は専門外の見解に惑わされ、我々もそれ

に流されているようだ。我々専門家は、このことについて憂うべき

事態ととらえることが必要なのでないか。

医療倫理として「心

ここにあらざれば、見えども見えず、聞けども聞こえず、食らえ（くらえ）どもその味を知らず」。最後に人間の歯牙は草食

向きであり肉食向きの歯牙ではない。